

## 05年01月19日■脱北者がもたらした写真について（1月19日記者会見発表文書）

平成17年1月19日

### 1月16日に発表した2枚の写真について

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

去る1月16日、記者会見において発表した斎藤裕さん、松本京子さんとみられる人物の写真について、TBSに対し18日、拉致被害者ではなく、一般の脱北者ではないかとの情報提供があり、現地でTBSが事実関係について調査した。まだ、不確定な要素があるが、現時点で分かっているのは以下の通りである。

### 記

1、写真の男女は脱北者であり、現在韓国に在住していることが明らかになった。本人たちは自らがもともと北朝鮮国民であり、日本人拉致被害者ではないと言っている。これについての事実関係は現在調査中であるが、橋本正次東京歯大助教授が当初の写真で分からなかった部分を比較されたことによって、松本京子さんである可能性が高いとされた女性は別人と判断された。男性については酷似しているが、TBSがさらに詳しい確認を行っている。

2、TBSが写真を提供した脱北者に再度写真について質したところ、昨年10月頃から報道機関に提供した写真の中に拉致被害者でないものを混ぜたことを認めた。

3、私たちも写真の中に拉致被害者でない人物のものがあることは想像していたが、あらためて調査活動の困難さを再認識した。しかし、情報量の少ない中で拉致被害者を探すのはもともと困難がともなう作業である。写真を提供した脱北者も既に提出した藤田進さん、加瀬テル子さんの写真については間違いなく日本人拉致被害者のものであるとしており、写真の状況の違い等から私たちはこの2人についてはやはり間違いのないものと確信している。もちろん、この写真と一致するか否かにかかわらず、斎藤裕さんと松本京子さんが拉致されている可能性は高いと考えている。

4、私たちの判断に勇み足があったことで、ご家族等関係各方面にご迷惑をおかけしたこ

とについては率直にお詫びしたい。男性についてはさらに確認の必要があるが、いずれにせよ今後はより確実な調査活動を行うべく努力する所存である。ただ、少ない情報から拉致被害者を探していくためには石橋を叩いて渡る方法では不可能である。現在写真の入手をはじめ様々な形で報道関係者等とも連携をとっているが、この活動にブレーキがかからないよう切に希望する。

以上

---

平成 17 年 1 月 20 日

斉藤裕さんと似た男性について

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

16 日に発表した 2 人の写真について、すでに発表した通り、その写真が北朝鮮から持ち込まれたものではなく、写真提供者が持っていた脱北者の写真を拉致被害者だと偽って TBS に提供したことが分かりました。2 人を撮影した VTR の静止画像で、松本京子さんと思われた女性については別人であることが昨日橋本助教授の鑑定からも確認されています。

男性についてはさらに調査を行いました。昨日深夜、ソウルの関係者が男性本人に接触し、その結果次のような証言を得ました(実際は時間場所を特定して詳しく聞いているが、男性および北朝鮮の家族の保護のため本人を特定できる情報はカットしました)

J 氏 (男性)

1950 年代後半、黄海南道生まれ。

1970 年代前半から 1990 年代後半まで人民軍勤務。除隊後脱北し、5 年程中国に住んで 2003 年に韓国に入国した。写真はハナ院の「歴史探訪」(遠足のようなもの)で大田の近郊に行ったときのもの。

同じ写真に写っている別の女性をふくむ 3 人は脱北者支援施設であるハナ院の同期。

橋本助教授は男性について、本日さらに静止画像から比較検討され、「斉藤裕さんの写真と側方から見た男性の耳や顎の形態に相違が見られる。正面から見たときには分からなか

った部分だが、その部分に説明できない相違が認められるため、同一人物ではない」と判断されました。

以上のことから、今回発表した2人の写真のうち、男性の写真についても別人であったと判断するに至りました。あらためて情報の発表などご家族を含め 関係各方面にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

私たちは斉藤さんと松本さんが拉致されている可能性が高いことには変化がないと認識しております。今回のことを教訓としてお2人をはじめとして特定失踪者に関する情報の収集、分析の方法を改善し、今後更に積極的な情報収集に努める所存です。なお、写真の2人につきましては北朝鮮に家族のいる脱北者であることから、各方面におかれましては情報の扱い等に格段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。